

平成25度

笠岡市水道事業会計

決算概要



笠岡市上下水道部水道課

★業務量について

事 項	単位	平成 24 年度 決算	平成 25 年度 決算	比較増減	
				増減	率
計画給水人口	人	65,000	65,000	0	100.0
年度末給水人口	人	52,087	51,515	△572	98.9
年度末給水戸数	戸	21,319	21,528	209	101.0
計画給水人口に対する普及率	%	80.1	79.3	△0.8	99.0
年間総配水量	m ³	5,599,010	5,494,281	△104,729	98.1
1日最大配水量	m ³	17,467	17,307	△160	99.1
1日平均配水量	m ³	15,340	15,053	△287	98.1
1人1日最大配水量	ℓ	335	336	1	100.3
1人1日平均配水量	ℓ	295	292	△3	99.0
年間給水量（有収水量）	m ³	5,128,062	4,937,581	△190,481	96.3
有収率	%	91.6	89.9	△1.7	98.1

- 本年度における給水戸数は、21,528戸で前年度に比べ209戸の増加となりました。
- 給水人口は、51,515人で前年度に比べ572人減少し、行政区域内人口に対する普及率は、98.5%となりました。
- 配水量は、5,494,281 m³で前年度に比べ104,729 m³の減少となりました。
- 有収水量も、4,937,581 m³で前年度に比べ190,481 m³の減少となりました。また、有収率は、前年度より1.7ポイント低下し、89.9%となりました。

★ 決算概要

◆収益的収支

（金額単位：円）

年 度	収益的収入	収益的支出	当年度純利益
平成25年度	1,190,716,931	1,153,969,632	36,747,299
平成24年度	1,217,510,716	1,136,175,481	81,335,235
差 引	△26,793,785	17,794,151	△44,587,936

平成25年度笠岡市水道事業会計決算は、収益的収入においては、約11億9,070万円で前年度に比べ約2,680万円の減収となりました。

また、収益的支出は、約11億5,400万円で前年度に比べ約1,780万円増加しました。

この結果、収益的収支において約3,670万円の当年度純利益を生じています。

剰余金の処分については、前年度からの繰越利益剰余金と合わせた未処分利益剰余金約4,680万円のうち、減債積立金へ1,000万円、建設改良積立金へ2,000万円積み立てました。

◆資本的収支

(金額単位：円)

年 度	資本的収入	資本的支出	差 引 額
平成25年度	330,373,224	462,868,626	△132,495,402
平成24年度	443,728,070	736,635,687	△292,907,617
差 引	△113,354,846	△273,767,061	160,412,215

資本的収入は、約3億3,040万円となり、前年度に比べ約1億1,340万円の減少となりました。一方、資本的支出は、約4億6,290万円で、前年度に比べ約2億7,380万円の減少となりました。この結果、約1億3,250万円の不足を生じましたが、過年度分損益勘定留保資金等で補填しました。



★損益計算書（経営成績）

損益計算書は、1事業年度中の全ての収益と全ての費用を記載し、経営成績を明らかにするための報告書です。

(金額単位：円)

1.営業収益	1,164,985,964	[1]
2.営業費用	1,134,751,800	[2]
営業利益	30,234,164	[3] = [1] - [2]
3.営業外収益	25,655,547	[4]
4.営業外費用	18,117,949	[5]
経常利益	37,771,762	[6] = [3] + ([4] - [5])
5.特別利益	75,420	[7]
6.特別損失	1,099,883	[8]
当年度純利益	36,747,299	[9] = [6] + ([7] - [8])

- 収益は、営業収益・営業外収益及び特別利益に分類されます。
- 営業収益は、主たる営業活動から生じる収益をいい、水道事業においては、水道料金収入がそのほとんど（96.6%）を占めています。営業外収益は、預貯金・貸付金から生じる受取利息や他会計補助金等があります。特別利益は、当年度の経常的な損益計算に算入されない固定資産の売却益や過年度損益修正益（過去の水道料金の更正による増加等）等があります。
- 費用は、営業費用・営業外費用及び特別損失に分類されます。
- 営業費用は、主たる事業活動のため生じる費用で、笠岡市の場合は、後述の水道事業費用内訳のとおりで、受水費（岡山県西南水道企業団から購入する水の費用）が約半分を占めています。営業外費用は、借入金の支払利息等です。特別損失は、事業の通常の経営に伴うものでなく固定資産の売却損や過年度損益修正損（過去の水道料金の更正による減額や不納欠損処分金等）等があります。

★貸借対照表（財産状態）

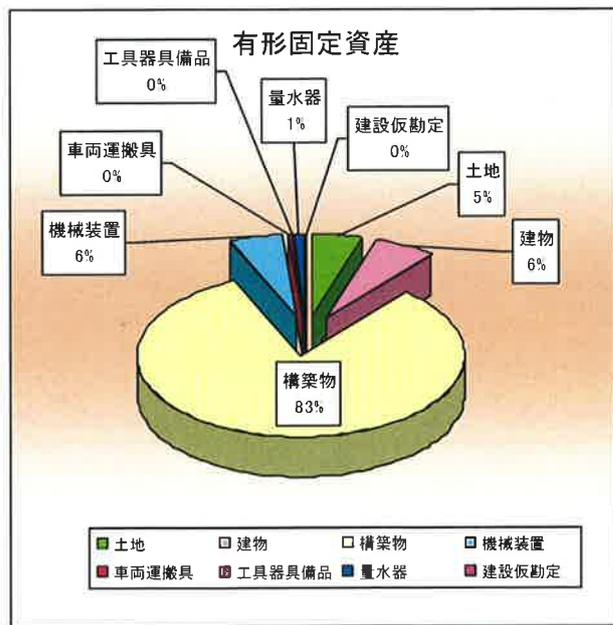
貸借対照表は、年度末の3月31日における資産・負債及び資本を総括的に表示し、財産の状態を明らかにする報告書です。
（金額単位：円）

◆資産の部		◆負債の部	
1.固定資産		3.固定負債	
(1)有形固定資産	7,530,731,858	(1)引当金	76,028,716
(2)無形固定資産	305,507,368	4.流動負債	
(3)投資	565,938,000	(1)未払金	65,153,357
2.流動資産		(2)その他流動負債	85,356,882
(1)現金預金	755,483,189	負債合計	226,538,955
(2)未収金	537,339,667	◆資本の部	
(3)貯蔵品	43,463,796	5.資本金	
(4)前払金	14,076,390	(1)自己資本金	1,220,041,933
資産合計	9,752,540,268	(2)借入資本金	418,944,496
資産合計と負債資本合計は、常に一致します。		6.剰余金	
		(1)資本剰余金	7,750,234,765
		(2)利益剰余金	136,780,119
		資本合計	9,526,001,313
		負債資本合計	9,752,540,268

◆有形固定資産明細

（金額単位：円）

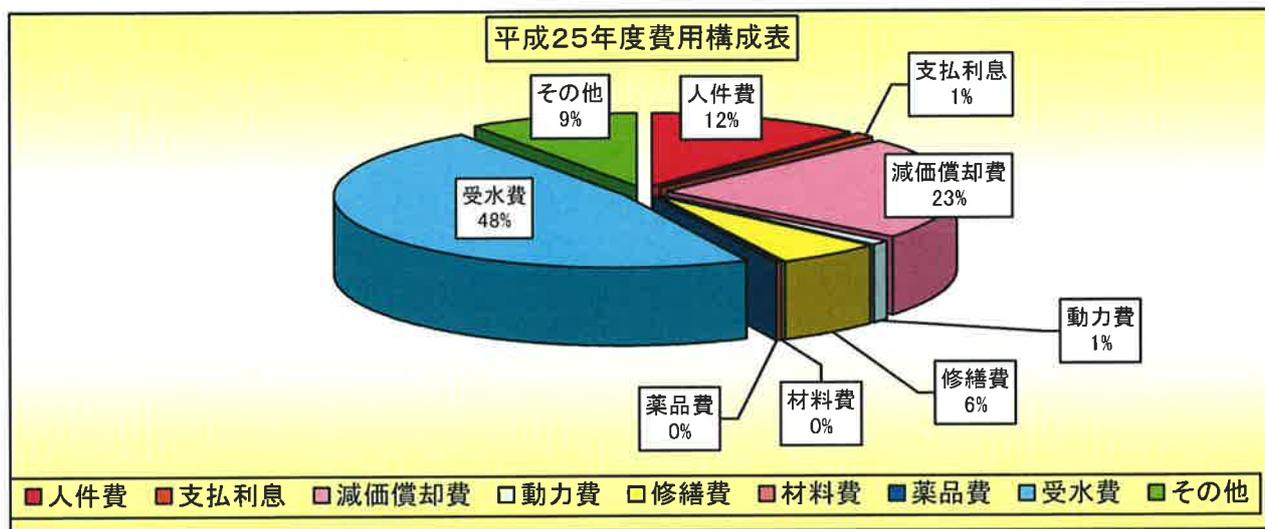
資産の種類	年度末償却未済高
土地	366,922,802
建物	473,603,970
構築物	6,191,825,020
機械及び装置	403,484,096
車両及び運搬具	8,399,371
工具器具及び備品	2,769,260
量水器	73,906,339
建設仮勘定	9,821,000
合計	7,530,731,858



◆水道事業費用内訳

表示単位（金額：千円，割合：％）

区 分	平成24年度		平成25年度		比較増減	
	金 額	割合	金 額	割合	金 額	割合
人件費	133,917	11.9	137,130	11.9	3,213	102.4
支払利息	13,786	1.2	13,712	1.2	△74	99.5
減価償却費	246,897	21.7	261,748	22.7	14,851	106.0
動力費	12,825	1.1	13,461	1.2	636	105.0
修繕費	58,724	5.2	68,571	5.9	9,847	116.8
材料費	1,348	0.1	1,613	0.1	265	119.7
薬品費	187	0.0	206	0.0	19	110.2
受水費	560,209	49.3	549,782	47.7	△10,427	98.1
その他	108,282	9.5	107,747	9.3	△535	99.5
合 計	1,136,175	100.0	1,153,970	100.0	17,795	101.6



- ・人件費は、職員の給料や法定福利費等です。
- ・支払利息は、水道施設を建設するために借り入れた資金の利息です。
- ・減価償却費は、水道施設を使用することによって発生する資産価値の減価分の費用です。
- ・動力費は、市民のみなさんに水を送り届けるために必要なポンプ等の電気代です。
- ・薬品費は、水をきれいにするための薬品代です。
- ・材料費は、施設設備等の修繕用の費用です。
- ・受水費は、岡山県西南水道企業団から購入する水道水の代金です。

笠岡市の場合、費用構成の内、約半分が水道水の購入費なのです。



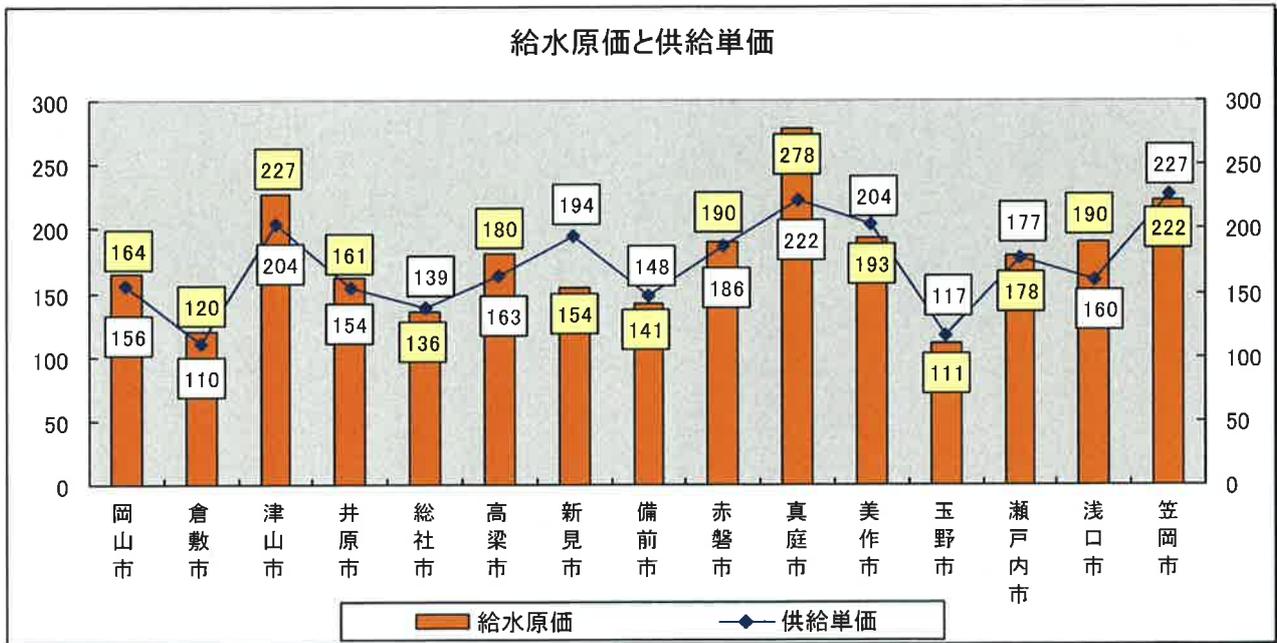
◆岡山県内 15 市の給水原価と供給単価（平成 24 年度）

	給水原価	供給単価	差引額
岡山市	164	156	△8
倉敷市	120	110	△10
津山市	227	204	△23
井原市	161	154	△7
総社市	136	139	3
高梁市	180	163	△17
新見市	154	194	40
備前市	141	148	7
赤磐市	190	186	△4
真庭市	278	222	△56
美作市	193	204	11
玉野市	111	117	6
瀬戸内市	178	177	△1
浅口市	190	160	△30
笠岡市	222	227	5

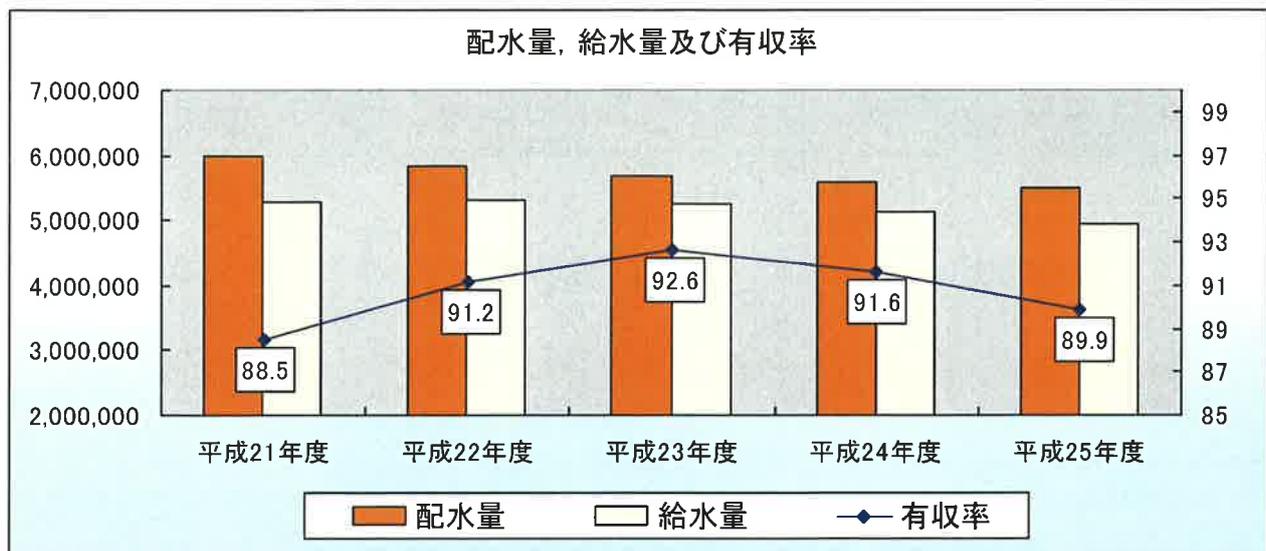
この数値は、岡山県がホームページで公表している「岡山県の水道の現況」より、抜粋したものです。

「給水原価」は、1 m³当たりの水道水を作るために必要な経費を表しています。

「供給単価」は、みなさんにお売りした水道水 1 m³当たりの平均単価を表しています。



◆配水量、給水量及び有収率の推移



区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
配水量(m³)	5,975,877	5,840,101	5,676,830	5,599,010	5,494,281
給水量(m³)	5,288,407	5,324,370	5,254,656	5,128,062	4,937,581
有収率(%)	88.5	91.2	92.6	91.6	89.9

※有収率とは、年間配水量（岡山県西南水道企業団から購入した水量）に対して、年間給水量（料金収入があった水量）の割合で、100%に近いほどよい。

◆県内各市の有収率

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
岡山市	88.60	89.00	90.3	90.3
倉敷市	94.02	92.70	92.6	93.3
津山市	82.09	82.80	83.6	83.1
玉野市	92.50	92.60	92.9	92.1
井原市	83.40	83.63	83.6	83.5
総社市	85.30	88.31	88.1	89.9
高梁市	83.76	83.30	82.9	82.9
新見市	81.60	83.50	78.8	80.8
備前市	88.09	87.68	87.9	86.0
瀬戸内市	85.00	84.00	83.6	84.7
赤磐市	88.54	88.43	87.5	87.8
真庭市	84.01	82.17	83.0	83.2
美作市	73.91	73.93	76.6	78.6
浅口市	95.00	93.10	99.9	99.9
笠岡市	88.50	91.20	92.6	91.6
平均	86.29	86.47	89.8	90.0

本市の水道事業においては、経費の節減とサービスの向上に努め、安定した経営に取り組んできました。

しかし、人口の減少や節水機器の普及等による有収水量の減少に伴い水道料金収入が年々減少する中で、水道施設の更新や耐震化へ取り組む必要があり、本市の水道事業を取り巻く状況は、今後さらに厳しくなると予想されます。

今後とも、事業内容や効果の検討を行い「ライフラインとしての水道事業」の重要性を深く自覚し、安全で安定した水を次世代へ引き継いでいくために、より一層の安定した経営を目指します。